

●『英語教育者のためのサマーワークショップ』拝見

英語漬けの1週間で
エネルギーを充電

LIOJ (Language Institute of Japan : 日本外語教育研究所)は、毎年、神奈川県小田原市にあるアジアセンターで、英語教育者のためのサマーワークショップを行なっている。8月1日から始まった第29回ワークショップには全国から55名が参加。英語漬けの1週間で過ごした。

相模湾を一望する神奈川県小田原市の高台に建つアジアセンターで、8月1日から1週間にわたり行なわれた英語教育者のためのワークショップには、私・公立の中・高・大学の英語教師55名が、東北や九州といった遠方を含め全国から集まった。英語教師志望の大学生から75歳の元英語教師まで参加者の年齢層も幅広い。

参加者は全員センターに宿泊し、毎朝9時から、英語教育に関するクラスやプレゼンテーションに参加する。授業中はもちろん、食事中や自由時間の会話もすべて英語で行なうのがこのルールだ。

参加者は、午前中は1週間を通して自分の選択したクラスを受講する。英語上達のクラスから生徒の動機づけのクラス、ビデオを使った英語の教授法のクラスなどがある。

午後は5～10種類あるクラスを毎日自由に受講できる。例えば、セミナー3日目の“Cross Cultural Simulation Approaches”のクラスでは、イスラエルや韓国など手軽にできる世界のゲームを英語の授業に取り入れる方法が紹介された。教室には終始笑い声が絶えず、先生たちは休憩時間も忘れてゲームに熱中していた。

また、人気のクラスの一つ“Global Education”では、英語を通して生徒に女性問題や自然環境問題といった世界の問題に興味を持たせる教授法についての講義があった。イギリス人歌手スティングが環境問題について語ったインタビューのビデオを見た後に、その内容について講師から質問を受ける先生たちの表情は真剣そのものだ。

「久しぶりに英語を使ったな。

普段授業で英語を使うとしても限られたクラスルームイングリッシュなので、このように自分の意見を言ったり同業者の意見を聞くというのは有益です」

と日本大学第二中学校英語科の黒澤隆司先生は言う。

「最初の1日、2日はなかなか英語が出てこないんですけど、だいたい慣れたかな、という感じです。毎日ほとんど英語漬け状態ですね。生徒に英語を話せるようになってもらうためには、まず自分が英語を話さない」と

●国際色豊かな参加者の顔ぶれ

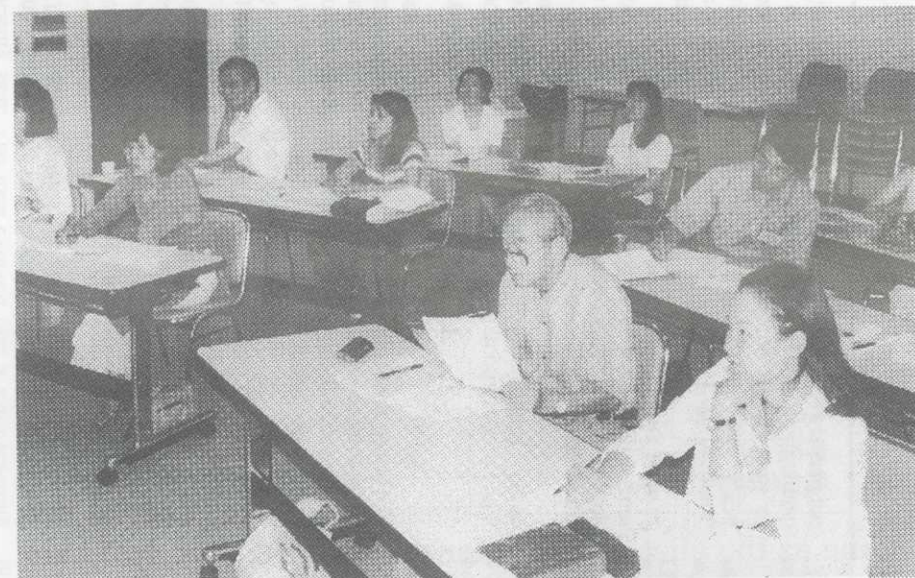
LIOJでは、毎年アジア各国の英語教師を招聘している。今年は韓国、ラオス、香港、タイ、ベトナムから6人が参加した。講師はアメリカやイギリス、カナダなど英語圏各国から招待される。さまざまな国の文化に触れることができるのもこのセミナーの魅力の一つだ。

関東国際高校の高水^{こうみづ}間理香先生は、

「私のルームメートはラオスからの参加者。アジアの人と英語でコミュニケーションできるのも楽しい。普段は教える立場にいますが、たまには生徒に戻る必要があります」と話してくれた。

タイからの参加者、Pot-Arwut Prachakさんは、

「世界共通語としての英語は大切。タイでもコミュニケーション



communicative English についてのクラスでは、ドリルを使った効果的な会話の練習法などが伝授された。写真右は“International Night”でのアメリカのブースに集まる参加者たち

のための英語をいかに教えるかが重要です。国に帰ったらぜひ、今回のセミナーで学んだことを同僚とわかち合いたい」

と言う。

タイではこれまで小学校5年生から英語を教え始めていたが、去年から小学校1年生から英語教育を導入。韓国では今年から小学校1年生から英語を教え始めるなど、アジアでの英語教育への関心は高い。

これまで22回、このセミナーに参加したという名古屋市立桜台高校英語非常勤講師のセツ村実先生は、参加の理由を次のように語る。

「頭の中も英語も錆び付かないようにと思い、参加しました。海外旅行をするよりはここのほうがためになるので。海外旅行をして



も黙っていれば英語は使わなくてもすむけれど、ここだったら使わざるを得ない。それにここでは世界中のいろいろな英語が聞けます」

また、英語では敬語を使わなくていいので皆ざっくばらんに話ができる、と話してくれた。

夜は日本を含めた12の参加国がそれぞれの国の文化を紹介する“International Night”が開催され、ホールには各国のブースが並べられた。民族ダンスや歌も披露され、講師や参加者、地元の人々も集まり夜遅くまで大いに盛り上がった。

(長野)

1997年8月22日

週刊ST

(Japan Times社発行)